

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520927

研究課題名(和文) 東日本における初期仏教寺院導入期の考古学的研究

研究課題名(英文) Archeological study of the initial chaitya introduction period in the East Japan

研究代表者

酒井 清治 (sakai, kiyoji)

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号：80296821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：寺谷廃寺は埼玉県比企郡にある、東日本最古の寺院である。寺谷廃寺の付近には、大型古墳が存在しない。寺谷廃寺が造営された理由は、安閑天皇の時代に横渟屯倉が設置されたことと関係がある。7世紀前半に推古朝が屯倉の殖産として、羽尾に須恵器の窯が、平谷に須恵器と瓦の窯が作られ、寺谷に寺院を建立して、先進的な仏教文化を最も早く導入したのである。

その導入に関わったのは、『聖徳太子伝暦』に登場する、633年に武蔵国造になった物部連(直)兄麻呂であろう。

研究成果の概要(英文)：Terayatu abandoned temple is in Hiki-gun, Saitama Prefecture, is the East Japan oldest temple. In the vicinity of Terayatu abandoned temple, there are no large tumulus. The reason for Terayatu abandoned temple was built is, it would be related to the fact that Yokonunomiyake(横渟屯倉) was established in the era of Emperor Ankan(安閑). Suiko(推古) dynasty is as Technology transplant of Miyake(屯倉) the first half of the 7th century, earthen vessel of kiln to Haneo, earthen vessel and tile kilns are made in Tairayatu, and erected a temple to Terayatu, It will be of the most early introduction of advanced Buddhist culture.

And was involved in the introduction, to appear in the "Prince Shotoku Denryaku(聖徳太子伝暦)", in 633 years it will be Mononobe Muraji(Atai) Emaro became Musashi Kuninomiya(国造).

研究分野：考古学

キーワード：埼玉県 寺谷廃寺 仏教文化 初期寺院 素弁蓮華文軒丸瓦 百濟 7世紀前半

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本に仏教が伝わり、588年蘇我氏により飛鳥寺の造営が開始された。記録によれば624年時点で寺院数は46カ所で、畿内地域に集中していた。ところが692年時点には545カ所に増加し、考古学的にも全国に分布する白鳳時代の寺院跡は約500カ所となっている。

(2) 地方の寺院跡は白鳳時代に造営されたと考えられているが、埼玉県滑川町寺谷廃寺は飛鳥時代で東日本最古の寺院である可能性が指摘されており、その系譜と背景が問題となっていた。

2. 研究の目的

(1) 東日本で寺院が造営されはじめたのは7世紀後半代で、群馬県山王廃寺、千葉県龍角寺跡などがあるが、両寺院とも近接する大型方墳と同時期で、大首長と密接な関連がある。しかし、一般的には方墳築造を停止した後、数十年の間隔をおいて寺院が建立されている。

(2) 寺谷廃寺は6世紀末から7世紀前半に創建されているというが、その周辺には方墳など大型古墳がない。出土する素弁軒丸瓦は飛鳥寺の系譜、百済からの渡来人が関与したという見解がある。

(3) 寺谷廃寺、平谷窯跡の瓦と須恵器から、需給関係、寺域、創建年代、瓦の技術的観点から系譜について探り、東日本の初期寺院について造営の在り方を検討する。

(4) 寺谷廃寺の素弁軒丸瓦が飛鳥寺系軒丸瓦か、百済からの渡来人が関与したのか、日本と朝鮮半島の交流研究を視野においている。

3. 研究の方法

(1) 2010年に駒澤大学で発掘した寺谷廃寺と平谷窯跡、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、青木忠雄、高橋史朗所蔵の資料をデータベース化し、瓦の変遷、需給関係、寺院の創建、存続年代を検討する。

(2) 出土瓦の理化学的蛍光 X 線回析と化学分析による胎土分析を行い、考古学的観察と比較検討する。

(3) 寺谷廃寺の創建瓦は素弁8葉軒丸瓦であることから、類似する資料の集成と比較検討を行う。対象として飛鳥寺系軒丸瓦と、百済の素弁軒丸瓦である。また、新羅にも百済系の瓦があることから、それも対象とした。

4. 研究成果

(1) 寺谷廃寺は瓦の集中から A 地点と B

地点に分かれる。B 地点は素弁軒丸瓦と古式のナデを持つ丸・平瓦が出土する。A 地点は素弁軒丸瓦も出土するものの、新式のナデを持たない丸・平瓦が主体である。

(2) 寺谷廃寺の瓦には合計17種の格子叩きと1種の縄叩きが存在するが平行叩きが存在しないことが特徴である。この瓦のいくつかは、近接する平谷窯跡の出土瓦と同一叩きであり、需給関係が明らかである。

(3) 寺谷廃寺・平谷窯跡出土瓦の肉眼的胎土観察では、1a、1b、2a、2b、3類の5種類に分類できた。1a類は砂粒がわずかで粘性が強く、胎土が緻密で、焼成が良く焼き締まっている。平瓦は叩きののち横位撫で叩きを消し、凹面は不定方向の削りや撫でを行い、布目と模骨痕を消す。側面は狭いへら削りを複数回削り、面取している。厚さは一定せず、焼け歪みも多く、灰白色から褐色である。寺谷廃寺 B 地点から出土する。

1b類は、1a類と同様であるが、小粒の砂粒が多くなる。寺谷廃寺 B 地点から出土する。

1a類、1b類とも瓦第1段階前半である。2a類は砂粒が大粒で多く含み、胎土は粗く粘性はなく、多孔質で割れ目がガサつく。凸面は叩きのあと横位撫でを施し、凹面は側縁に並行するように砂粒の走る削りが行われ、模骨痕、布目を消す。厚さが1a・1b類と比べ一定し、焼け歪みが少ない。赤褐色が多い。平谷1号窯跡からも出土するが、理化学的胎土分析から寺谷廃寺 A 地点へ供給されたと考えられる。瓦第2段階である。

2b類は、砂粒がほとんどないが、粘性はなく、焼成が甘いため多孔質で粉が手に付くものがある。技法は2a類と同じで、焼成も赤褐色である。粗い縄叩きで、寺谷廃寺 B 地点でわずかに出土するだけで、補修瓦であろう。平谷窯跡の胎土とも異なり、他の窯から運ばれた可能性が高い。凹面は未調整で模骨痕が残ることから、瓦第2段階であろう。

3類は、砂粒が大粒で粘土は粗く粘性はなく、多孔質で割れ目がガサつく。凸面は叩きののち未調整で、凹面は撫でを施すものもあるが、未調整が多い。側面は調整がほとんど見られない。赤褐色や青灰色を呈し、平谷窯跡、寺谷廃寺 A 地点から出土する。瓦第3段階である。

(4) 第四紀地質研究所による X 線回析による胎土分析の結果は、Qt(石英) - Pl(斜長石)の相関関係では、寺谷 A・B 地点とも平谷1・2号窯から供給された。化学分析結果では、SiO₂(二酸化ケイ素) - Al₂O₃(酸化アルミニウム)の相関から、寺谷廃寺 B 地点は平谷2号窯から、A 地点は1・2号窯

から供給されている。Fe₂O₃(酸化鉄) - TiO₂(酸化チタン)では寺谷廃寺B地点は平谷2号窯、A地点は平谷1・2号窯から供給された。総合的に考えて、寺谷廃寺B地点とA地点とも、平谷1号窯、2号窯から供給されたと考えていいようである。

(5) 寺谷廃寺と平谷窯跡の瓦から、瓦第1段階前・後 瓦第2段階 瓦第3段階の変遷を考えた。第1段階前半にB地区の狭い丘陵先端に堂舎のような建物が1棟程度作られ、寺谷廃寺で古式の2類素弁8葉軒丸瓦と丸・平瓦が葺かれていたのであろう。丸瓦と平瓦の破片数出土割合は、発掘調査では1:16.4、表採資料では1:17.8と圧倒的に平瓦が多く、屋根の葺き方に特徴があり、葺棟などが想定できる。

A地点でも素弁8葉軒丸瓦1類が出土し、瓦第1段階後半も素弁8葉軒丸瓦3類が出土するが、丸・平瓦などは確認できていない。しかし、何らかの建物があった可能性がある。

瓦第2段階は、B地点に縄叩きの平瓦が補修瓦として出土するだけである。

A地点では棒状子葉単弁8葉軒丸瓦と三重弧文軒平瓦(瓦当断面U字形)が、撫でや削りを施す格子叩き15~17類の丸・平瓦とともに出土する。

瓦第3段階にはB地点で出土瓦がないことから建物は存在しないであろう。A地点には棒状子葉単弁8葉軒丸瓦と三重弧文軒平瓦(瓦当断面コの字形)が使用され、撫で、削りを施さない格子叩き7類~14類丸・平瓦が多く出土する。出土瓦からA地点には瓦第2段階から3段階まで伽藍が存在したようである。

(6) 平谷1号窯は、地下式穴窯で操業開始時に溝付排煙口という須恵器窯に多い構造を持ち、須恵器を焼いていた。焼成器種は一般に古墳に副葬される蓋坏H坏身、高坏壺、甕で、2号窯も同様である。1号窯はその後床面を削り、階段を設けて瓦窯として寺谷廃寺の創建瓦を焼成し、瓦第2段階、第3段階の瓦も焼成している。

操業開始時に焼成された須恵器は、陶邑TK209型式以降で620~630年代と考えられることから、寺谷廃寺の創建はそれを遡ることはなく、630年代以降で7世紀第2四半期に収まるであろう。

(7) 関東でこれまで最古の寺院は、7世紀後半の群馬県山王廃寺であり、近接して大型方墳の宝塔山、蛇穴山古墳がある。また、千葉県龍角寺も近接して方墳の岩屋古墳、前方後円墳の浅間山古墳があり、寺院建立には大豪族との関連が想定できる。

ところが寺谷廃寺は7世紀前半にさかのぼり、周辺には方墳や大型古墳が存在しない。しかし、隣接して羽尾窯跡、花気窯跡とい

う6世紀末から7世紀前半にかけて須恵器窯が作られている。

(8) 寺谷廃寺に近接して、羽尾窯跡、花気窯跡で須恵器生産が行われ、平谷窯跡でも当初須恵器を焼成し、窯を階段構造に改築して寺谷廃寺の瓦を生産した。この地域に大型古墳がないことから考え、安閑紀に記される横見郡に設置されたとする横渟屯倉との関連を想定した。各地に見られる推古朝期に行われた屯倉の殖産の場としてこの地が選ばれ、仏教文化も導入したのである。

(9) 寺谷廃寺の創建に関わったのは『聖徳太子伝暦』に見られる、聖徳太子舎人勤務の後、帰郷して633年に武蔵国造になった物部連(直)兄麻呂の可能性もある。比企の地を本拠地としていたと想定されていることから、寺谷廃寺の考古学的な年代とも近く、可能性が高いであろう。

(10) 素弁軒丸瓦は1~3類の3種ある。また、瓦第2段階以降A地点では棒状子葉単弁軒丸瓦を使い、伽藍を造っている。このことは、創建時から計画を持ち継続して建立された寺院だと考えられる。

(11) 素弁軒丸瓦の系譜については、飛鳥寺系、あるいは朝鮮半島百濟から渡来人が伝えたとの考え方があった。

この素弁8葉軒丸瓦の特徴は、中房が大きく、蓮子の数が1+4であり、飛鳥寺に存在しない。奈良県願成寺跡に類似する例はあるものの、列島には数少ない型式である。韓国扶余の瓦、古新羅の百濟系譜の瓦を一部調査した。百濟扶余の軍守里廃寺などに類例が多いが、百濟の叩き技法は平行叩きが主体である。しかし、百濟にも格子叩きは存在しており、百濟周辺地域の調査も必要で、系譜については今後も検討すべき問題である。

(12) 寺谷廃寺で瓦第2・3段階に用いられた棒状子葉単弁8葉軒丸瓦は、7世紀後半代に東松山市大谷瓦窯跡、鳩山町赤沼窯跡で焼成されていくことから、比企郡北部から南部、入間郡北部へ広がっていく文様である。

(13) 棒状子葉単弁軒丸瓦が入間郡郡寺と考えられる坂戸市勝呂廃寺創建瓦となっている。入間郡には『続日本紀』の中で8世紀後半に登場する大伴部赤男と物部直広成がおり、後者が(9)の物部連(直)兄麻呂との関連から、勝呂廃寺を創建したと想定した。

勝呂廃寺創建が大伴部赤男とする見解もあるが、棒状子葉軒丸瓦や関連瓦が比企郡から入間郡北部に分布し、比企北部の寺谷廃

寺との関連があること、広い地域の瓦分布が、768年に物部直広成とともに6人が入間宿祢を賜った同族の勢力圏と想定した。

駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：80296821

(14) 棒状子葉軒丸瓦は比企郡・入間郡だけではなく、南多摩の橘樹郡である川崎市影向寺にも見られ、橘樹郡の郡寺と考えられている。橘樹郡には飛鳥部吉志が屯倉管掌者とする考え方もある。また、橘樹郡には国府・国分寺と関わりのある寺尾台廃寺が建立される。

勝呂廃寺の創建瓦は南比企丘陵窯跡で焼成され、勝呂廃寺にも国分寺瓦が多く出土し、国分寺建立に協力したのが勝呂廃寺造立氏族であると考えられる。

今後、南多摩地域との関連も視野に検討を続けたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

酒井清治、南多摩に分布する剣菱文軒丸瓦と牛角状中心飾り唐草文軒平瓦小考、駒澤考古、査読無、40号、2015、1-14、

酒井清治、埼玉県寺谷廃寺から勝呂廃寺 - 素弁軒丸瓦から棒状子葉軒丸瓦へ - 、駒沢史学、査読無、82号、2014、187-212、

酒井清治、井上巖、埼玉県滑川町寺谷廃寺・平谷窯跡出土瓦の胎土分析、駒澤考古、査読無、37号、2012、67-88、

酒井清治、瀬尾晶太、永山はるか、埼玉県比企郡滑川町寺谷廃寺出土瓦について、駒沢史学、査読無、79号、2012、1-21、

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 4 件)

酒井清治 他、同成社、中華文明の考古学、2014、296-306/486、

酒井清治、同成社、土器から見た古墳時代の日韓交流、2013、310

酒井清治 他、青木書店、講座日本の考古学7、古墳時代(上)、2011、638-666

酒井清治 他、駒澤大学考古学研究室・滑川町教育委員会、寺谷廃寺・平谷窯跡 飛鳥寺時代の寺院跡と窯跡の発掘調査、2011、64

6. 研究組織

(1)研究代表者

酒井 清治 (SAKAI Kiyoji)